

## 一核兵器はなくせる(川崎哲氏) 国際署名ジャンプアップ集会開かれる

核兵器のない世界をめざしてヒバクシャ国際署名を飛躍的に広げようと、札幌でジャンプアップ集会が開かれ、130名を超える人々が講演と報告に耳を傾けました。主催は国際署名を進める北海道民の会です。北海道ではこの3月末で63万余筆の署名を集めました。やや勢いが滞っています。集会にはその現状を打開しジャンプアップしたいという思いが込められています。



眞田保道被爆者協会会長の挨拶の後、「核兵器はなくせる」と題して ICAN 国際運営委員、ピースボートの川崎哲さんが講演しました。川崎さんは条約の制定に向け ICAN やピースボートがどういう活動をしてきたか、条約が成立すると核兵器は悪として核保有国をもしばることなどを話し、そのために核抑止論のまやかしと危険を明らかにし、私たちの周囲に様々な形で情報を発信すること、国際署名を広げること、核開発に加担している企業に働きかけること、とりわけ議員や議会に働きかけること、などの必要性を具体的に話され、核兵器はなくせると訴えました。私たちの疑問に答えるわかりやすい話に、「参加してよかった」「いま何をすべきか参考になった」等々の感想が寄せられています。

また条約批准を求める議会の意見書採択をめざす富良野地区の粘り強い取り組みが報告され、国際署名の取り組みを基礎に議員や議会に働きかけていくことの重要性が語られました（発言資料参照）。

### 高校生みらいトークもー

集会には約20名の高校生も参加しました。第2部は川崎さんを囲んで高校生による「みらいトーク」です。広島・長崎へのスタディツアーで学んだ、平和大使として1万人署名にとりくみ国連に届けた、原水禁世界大会で被爆者の話を聞いて目を開かれ参加者と交流した、等々の報告を踏まえ、再び被爆者をつくらないために私たちに何ができるかを語り合い



ました。自分たちの周囲にはなかなか核兵器の話など聞いてもらえない状況があること、「愛国心」をどう打ち破ればいいのかなど、さまざまな悩みも率直に語られました。その中で、歴史に学ぶこと、体験を聞き想像力と価値判断を働かせること、これは絶対あってはダメと確信をもって言い続けること、地球全体の中での公共を考える必要があること等々、真剣な議論がかわされました。運動の新しい息吹を感じさせるものでした。

**賛同・参加団体 121 賛同個人 162** 2019/05/20 現在（新規分掲載、HP 参照）

＜平和・市民団体関係＞ 41 団体

＜医療・福祉関係＞ 10 団体

＜労働組合関係＞ 5 団体

＜文化・芸術・宗教関係＞ 8 団体（前回公表時より+2、以下同）

安保法制に反対する北海道宗教者連絡会 日本基督教団北海教区教宣部平和部門委員会

＜九条の会関係＞ 57 団体（-1）

＜個人＞ 172 名（+16、匿名・名前非公表 21 名、一部団体含む）

伊東やす子 岳本正登 篠原成清 桜谷和博 伊藤元枝 奥 晴夫  
船橋 操 風間英己 渡辺輝夫 本澤昌子 三本木郁 高村昭一

＜賛同署名道議会議員＞ 38 名（+24、98 名中）※全員掲載（但し第 30 期議員）

自民党・道民会議 本間勲・松浦宗信・中司哲雄

民主党・道民連合 小林郁子・沖田清志・三井あき子・広田まゆみ・高橋亨・  
北口雄幸・小岩 均・藤川雅司・星野高志・菅原和忠・  
松山丈史・梶谷大志・畠山みのり・須田靖子・平出陽子・  
川澄宗之介・橋本豊行・三津丈夫・中川浩利・勝部賢志・  
稲村久男・池端英昭・市橋修治・笹田 浩・

佐々木恵美子

北海道結志会 滝口信喜・大河昭彦・赤根広介・安住太伸・池本柳次・  
佐藤伸弥

日本共産党 佐野弘美・宮川潤・菊池葉子・真下紀子